

シライトマキバイ親貝の成熟及び産卵について

福島県水産種苗研究所

平成13年度福島県水産種苗研究所事業報告書

平成14年度福島県水産種苗研究所事業報告書

1 部門名

水産業一種苗研究(基礎)一種苗生産

分類コード 19-07-19000000

2 担当者

千代窪孝志

3 要旨

本県の重要漁獲対象巻貝であり、近年、資源の減少が危惧される本種に関して、種苗生産対象種としての可能性を探ることと、漁獲管理を適正に行うための生態的知見を得ることを目的に、親貝を調温海水で飼育し、以下の結果を得た。

(1) 親貝の確保

沖合底びき網による漁獲物は殻の割れが多く、短期間で斃死したために親貝として適さない。一方、カゴにより漁獲されたものは殻の割れがほとんどなく、収容後数日で摂餌を開始し、収容から8ヶ月間の生残率は約4割と高く、親貝に適している。

(2) 雌雄差

雌雄による殻高、殻径及び軟体部重量に差はなかった。

(3) 産卵

- ・ 自然産卵は周年確認されたが、同一個体の複数回産卵は確認できなかった。
- ・ 母貝は、殻高が98~125mmであり、1回に5日前後をかけて2,000~3,000個程度の卵(発生卵、栄養卵)の入った卵嚢をそれぞれ20~426個産卵した。
- ・ 産卵直後には、母貝の斃死はみられなかった。

(4) 飼育水温、ふ化及び稚貝

- ・ 6~11℃で飼育した結果、産卵後121日目に、積算水温では861℃で最初のふ化がみられた。
- ・ 稚貝は、卵嚢1個から約20個体ずつ出てきたが、全くふ化のみられない卵嚢もあり、最終的には、1回の産卵では2,000~4,000個体の稚貝が得られた。
- ・ ふ化率は35~81%であり、母貝による個体差が大きかった。
- ・ 稚貝は殻高が約1mmで、親と同様に殻・蓋を持ち、ふ化後直ちに匍匐運動を行った。

4 その他の資料等

なし